

自分の健康に関心をもち、進んで健康な生活を実践できる児童の育成 ～歯・口の健康つくりを通して～

学校名 群馬県館林市立美園小学校
19学級 540名

1 研究のねらい

自分の健康に関心をもち、進んで健康な生活を実践できる児童を育成するための指導のあり方を、歯・口の健康つくりの様々な教育実践を通して明らかにする。

※「健康な生活を実践できる」とは・・・

生涯にわたって、健やかな生活を送ることができるような資質（能力）や態度を身に付け、健康を考えて、進んで健康によいことが実践できることと、とらえる。

2 実施した主な活動

(1) 学習指導の実践

① 総合的な学習を核とした自分の健康に関わる单元での探究学習の実施

中学年→歯・口の健康に関わる学習、自分の健康に関わる学習
3年「食べ物と健康について考えよう」 4年「かみかみパワーのひみつ」
高学年→自分の健康の課題に気付き、解決のために健康な生活を実践する学習
5年「健康について考えよう（歯・口）」 6年「将来の健康について考えよう」



【4年学習発表会（総合）】



【5年養護教諭とのTT（総合）】



【6年探究活動の様子（総合）】

② 歯・口の健康つくり、健康な生活にかかわる学校行事や学級活動の実施

○ 歯の健康に関わる学校行事の事例（保健委員会の啓発活動、外部講師等の活用）



【歯科衛生士の歯みがき指導】



【栄養士による講話（集会）】



【保健委員会の発表（集会）】

○ 学級活動の事例



【歯科校医とのTT（2年）】



【歯垢染め出しテスト（4年）】



【前歯をみがこう（3年）】

③ 病気の予防、健康の保持増進にかかる体育科の保健学習



【授業の様子】



【血液の流れの実験】

○生活習慣病の予防を目指して、血管の模型を利用して血液の流れの実験を用いて、自分の健康を考える学習の実践

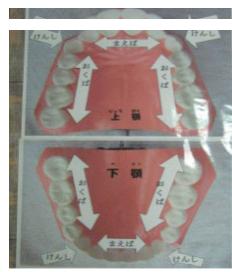
(2) 保健指導の実践

① 歯・口の健康づくりに関わる実践（日常の保健指導等の充実）

- ア 給食後の歯みがき
- イ 家庭での歯みがき（基本的生活習慣の育成）・・歯みがきカレンダー
- ウ 保健（健康）集会（健康に関する学習の充実）
- エ COやGO児童への歯科検診や個別指導
- オ 授業実践で使う教材・教具の作成（授業の支援）



【給食後の歯みがき（全校）】



【指導用掲示物作成】



【歯みがきカレンダー】

② 保健環境の充実・児童への啓発活動

- ア 歯ッピーコーナーの整備（歯科衛生啓発の掲示物、「歯ッピー通信」の掲示）
- イ 児童向けの保健（健康）の意識向上への取組
6月むし歯予防（図画・ポスター）の作成、むし歯予防・健康標語の作成



【歯ッピーコーナーの掲示】



【歯科衛生ポスター作品】



【歯科衛生図画作品】

③ 健康にかかる食育学習の取組

- ア 食生活の工夫・改善・・栄養教諭（栄養士）と連携した学習

○1年生の給食時訪問指導と学級活動「げんきのひみつ」の様子



【給食時の訪問指導】



【学級活動での指導】

イ 食育カルタの活用・・・給食時の放送、カルタの学習



【みんなで楽しむ食育カルタ】

○ 給食中の昼の放送で、毎日食育カルタを1枚ずつ紹介し、食育への関心を高めている。また、低学年を中心に、学級活動として、食育の学習の関連で、食育カルタ大会を実施している。

(3) 家庭・地域との連携活動

① 生活習慣の実態調査と変容の把握、健康への意識調査と変容調査

ア アンケート調査を実施して実態を分析（健康な生活の意識調査）

・保護者対象の実態調査及び学校評価項目に本研究関連内容を設定

イ DMFT指数やう歯の治療率等の変容を分析

② 家庭・地域への啓発・連携活動

ア 家庭・地域に向けて「歯ッピー通信」の発行（平成21～22年度）

イ 美園保育園、青柳保育園、杉並幼稚園、第五小学校、第四中学校への啓発及び連携活動（PTAにも協力を要請）

※拠点学校保健委員会（歯科講演会）（テーマ 歯・口の健康づくり）

保護者対象の健康づくり講演会（テーマ 家庭でできる生活習慣予防）



【歯ッピー通信の発行】



【拠点学校保健委員会（歯科講演会）】



【健康づくり講演会】

③ 専門家や関係機関等の連携活動

ア 館林歯科医師会（学校歯科医）との連携した授業や歯科保健指導（全学年）

イ 歯科衛生士による歯のブラッシング学習の実施（1年と4年）

ウ 館林市立学校給食センターの栄養士や栄養教諭とTTでの保健（健康）学習や総合的な学習の授業を実施（全学年）

エ 獣医師と連携した総合的な学習を実施（3年）



【放送で講話する学校歯科医】



【歯科衛生士による指導（4年）】



【栄養教諭とのTT（5年総合）】

3 研究の成果と課題（児童・保護者の変容を中心に考察）

（1）研究の成果

① 学習指導の実践から

ア 総合的な学習の時間及び学級活動の年間指導計画を全面的に見直し、歯・口の健康づくりにかかわる単元や題材を、系統的に位置付けることができた。その際、児童の実態に応じた改善を図り、実践においては、導入の工夫、教材・教具の開発、専門家とのTTの授業等の実践によって、授業の質的向上を図った。それにより、健康への意識が高まり、健康について考える態度が身に付きつつある。

イ 保護者への啓発をかねて、授業参観や学校公開日等に、歯・口の健康づくりにかかわる歯科保健学習や総合的な学習の発表によって、健康への関心が高まった。

② 保健指導の実践から

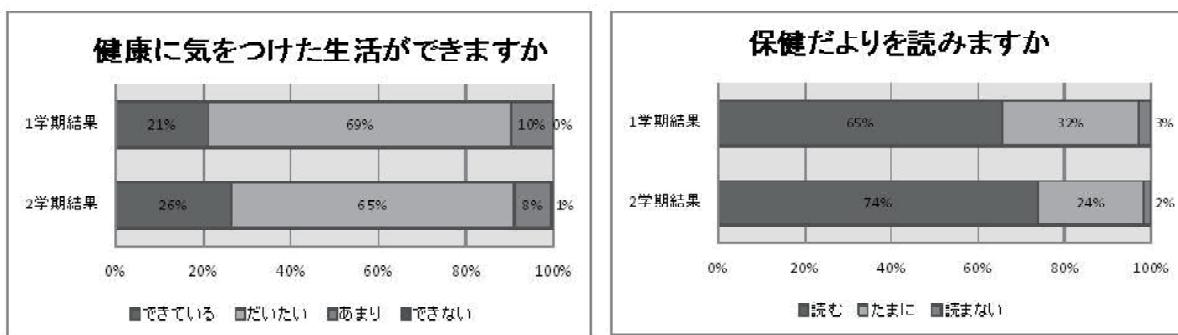
ア 6月に歯科保健集会を実施し、給食後に歯みがきの時間を全校で5分間設定し、歯みがきの音楽をかけ、曲にあわせて全校で歯みがきを実施してきた。また、校内でむし歯予防図画（ポスター）作成や歯科及び健康標語づくりにも取り組み、その結果、進んで歯みがきや自分の健康を考えた生活ができるようになってきた。

イ 保護者・地域への啓発を目的として、「歯ッピー通信」を定期的に発行したり、長期休業中に児童の健康カレンダー（毎日の歯みがきや生活習慣のチェック等）へ書き込みをしたり、家庭で親子歯垢染め出しテストを実施したことによって、歯・口の衛生や健康への意識が高まった。

③ 連携活動の実践から

ア この2年間の研究の結果、研究実践前の平成20年度と今年度の22年度を比べると、DMFT指数は1.14→1.03へと、う歯治療率は64.7%→76.5%に改善した。このことからも、歯・口の健康にかかわる意識が高まってきていると考えられる。

イ 拡大学校保健委員や歯科講演会、健康づくり講演会の実施などを通して、保護者対象の生活習慣にかかわる実態調査からも、児童が健康に気をつけた生活が実践できつつあることが分かった。また、実態調査等から保護者の歯・口の健康や健康な生活習慣を送ろうとする意識が改善してきていることが分かった。



（2）今後の課題

- ① 歯・口の健康づくりにかかわる計画的・系統的な学習指導を見直し改善する。
- ② 毎日の歯みがきや健康を考えた日常の保健指導の充実を図る。
- ③ 保護者とともに取り組む健康づくりへの啓発活動を継続していく。
- ④ 専門家や関係機関と連携した授業実践や保健指導を充実していく。